

令和5年度鳥獣被害対策支援活動報告会

かながわ鳥獣被害対策支援センター

令和5年度鳥獣被害対策支援活動報告会

目 次

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

1	自動給餌機による捕獲おりの省力的管理の試行.....	1
2	クマ被害防止の強化.....	5
3	イノシン焼却処理業務.....	10
4	分布拡大地域でのクリハラリス捕獲.....	16
5	クリハラリス音声識別調査の試行.....	25
6	かながわ鳥獣被害対策アドバイザー研修について.....	30

II 市町村と一体となった取組地区

1	相模原市緑区青根地区.....	37
2	葉山町長柄地区.....	42

参考資料.....	47
-----------	----

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

1 自動給餌機による捕獲おりの省力的管理の試行

① 目的

捕獲に使用するわなの管理は、労力負担が非常に大きいことが課題となっている。これを軽減する手段の一つである自動給餌機について、作業の省力化能力を調査し、実用性を検討する。

② 対象地域

伊勢原市洗水地区

③ 実施内容

ア 実施期間（設置期間）

令和5年10月～令和6年1月（3か月間）

イ 方法

タイマー機能により餌を吐出する自動給餌機を用いて、給餌できる餌の種類や使い勝手、管理に関わる費用、利便性の調査を行った。餌は大豆、ぬか、米、ドッグフード、圧片コーン、ヘイペレットの6種類。2週間ごと吐出実験を行い正常に稼働するか試験した。また、管理に関わる費用として、箱わな1台もしくは3台を自宅及びそれぞれの箱わな間の移動時間で往復車10分、降車後徒歩10分の場所に設置したと仮定し、金額の算出を行った。

④ 結果

事前の吐出実験で米ぬかは詰まってしまったため、それ以外の5種類で本試験を行った結果、問題なく吐出されることがわかった。しかし、ソーラーバッテリー切れが2度発生した。費用の算出では、自動給餌機を使用しない場合と累積管理コストが逆転するのは、685日後という結果が得られた。

⑤ 今後について

今回の試験、費用計算は1例に過ぎないため、別の現場で使用しその利便性について実例を積み重ねていく必要がある。

令和5年度鳥獣被害対策支援活動報告会

自動給餌機による捕獲おりの省力的管理の試行



かながわ鳥獣被害対策支援センター
主任技師 成瀬 真理生

業務概要

捕獲に使用するわなの管理は、労力負担が非常に大きいことが課題となっている。これを軽減する手段として、自動給餌機について、作業の省力化能力を調査し、実用性を検討することを目的とした。

- 設置場所：伊勢原市洗水地区
- 試験期間：10/25～1/25
- 試験内容：
6種類の餌を毎日2回、
2週間吐出し続ける



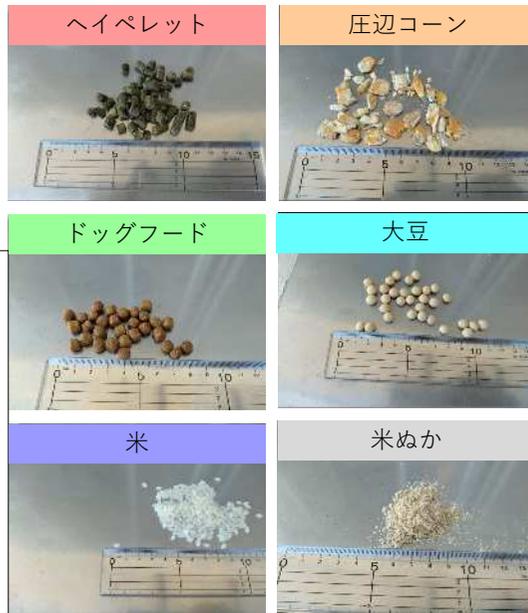
自動給餌機仕様

【自動給餌機概要】	
対象飼料	ドライペレット
全長×全幅×全高(mm)	350×350×465
タンク容量	17L
給餌方式	飛散式
電 源	DC-12V(バッテリー)
最大吐出量(kg/h)	180～340
対象飼料径(mm)	φ2～φ12
タイマー	マイコン制御式24時間タイマー
本体材質	樹脂(ASA、ABS)

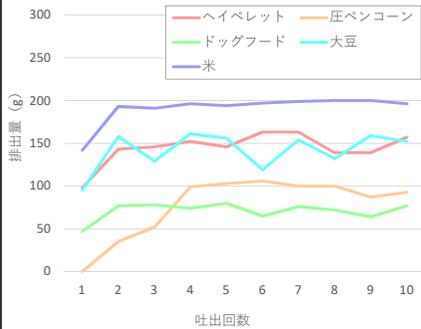


事前試験

事前に吐出試験を行った結果、米ぬかは詰まってしまったため、野外試験での本試験は中止した。



※30秒間の吐出を10回行った

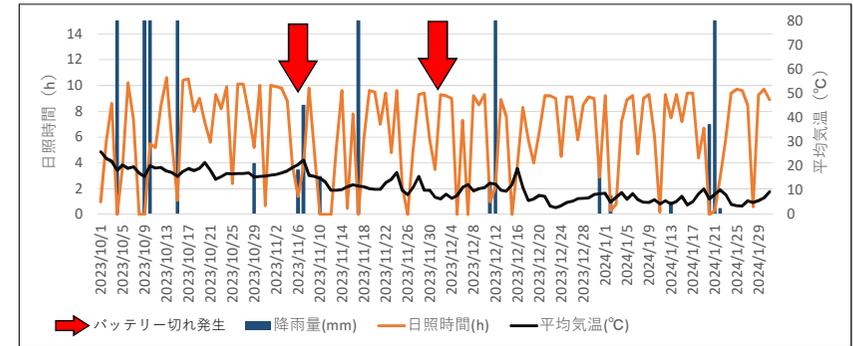


本試験

事前試験で吐出できた5種類は、本試験でも順調に稼働した。

問題点：バッテリー切れ

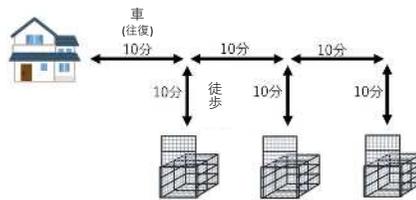
比較の日当たりが良い場所だったが、雨天の後、吐出されなかった。一度切れると、設定がリセットされるため再度タイマーのセットが必要



コストパフォーマンス

算出条件

- 箱わなは車移動往復10分、徒歩10分
- 設置数1基と3基の場合を算出
- 管理には清掃、餌補充、バッテリーの入れ替えで1回につき30分
- 自動給餌機は7日に1回巡視
- 労働1時間あたり給与は1500円

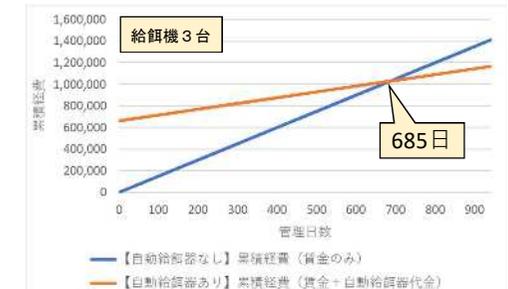


14日当たりの労務費		わな数と巡視時間		
		1基	2基	3基
自動給餌器あり	巡視にかかる時間	150分	300分	450分
	賃金 (1500円/hとして)	3750円	7500円	11250円
自動給餌器なし	巡視にかかる時間	280分	560分	840分
	賃金 (1500円/hとして)	7000円	14000円	21000円

コストパフォーマンス

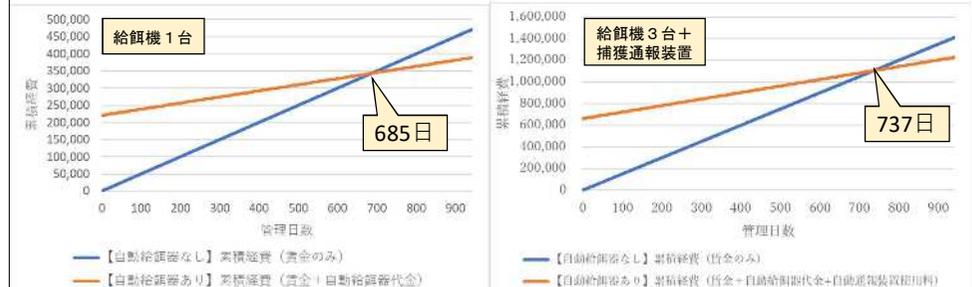
累積経費

- 自動給餌機 1基220,000円 (3基660,000円)
- 685日で費用回収



捕獲通報装置を使用する場合

- 737日で費用回収



まとめ

- ・ 固形の餌なら詰まることはなかった
- ・ 新鮮な餌を常に供給できる

問題点

- ・ バッテリー切れ
- ・ 費用回収に2年以上かかる
- ・ きめ細やかな誘引はできない

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

2 クマ被害防止の強化

① 目的

市町村が行う対策を支援するため、自動撮影カメラでクマの出没を監視した。また、里地のカキ園等の状況を調査し誘引性の評価をし、対策に必要な情報収集を行った。

② 対象地域

例年クマの出没が確認される、伊勢原市大山子易地域周辺

③ 実施内容と結果

ア 自動撮影カメラによる出沒監視

i) 実施内容

自動撮影カメラでの撮影内容を市町に情報提供。出没を特に迅速に把握したい場所では、通信機能付きの自動撮影カメラを活用。現地に行つてのデータ回収が不要のため、撮影映像をいつでも確認でき、クマの撮影確認後すぐに対応が可能。

【情報の活用方法】

- ・クマの出没の有無の確認：撮影があつた場合は追払いなどの対策に繋げる。撮影が無ければ、出没が無くなった事の確認となり、地域に安心感を提供できる。
- ・対策の効果を確認：防護柵などの対策場所を撮影し、対策が有効に機能しているかを確認。クマの行動を把握する事で、確実な対策を行える。
- ・クマを寄せ付けない環境整備作りに活用：誘因物は何か、どれくらい執着しているかを把握。原因物の特定と迅速な除去を行える。
- ・特徴から出沒個体を個体識別：繰り返し出沒する問題個体の検出や、地域に何頭のカマが出沒しているかの把握に役立つ。

ii) 結果

今年度の県内出沒情報数は例年通りだった。執着個体への対応として、4回捕獲檻を設置したが捕獲はなかった。自動撮影カメラはクマの出沒が多い9～12月に設置。令和5年度は4個体の出沒が確認された。

イ カキ園等栽培状況調査

i) 実施内容

里地のカキ園等、クマを誘引する可能性がある果樹園の状況（作付、放棄、対策の有無）を調査し誘引性の評価を行った。

ii) 結果

放棄園や対策が不十分な園地が散見され、更なる環境整備を行っていく必要があるとわかった。

④ 今後の予定

引き続き、自動撮影カメラによる出沒監視をするとともに、錯誤捕獲防止機能の付いたくり罠の試行、DNA解析による出沒個体の識別を行う。

令和5年度鳥獣被害対策支援活動報告会

クマ被害防止の強化



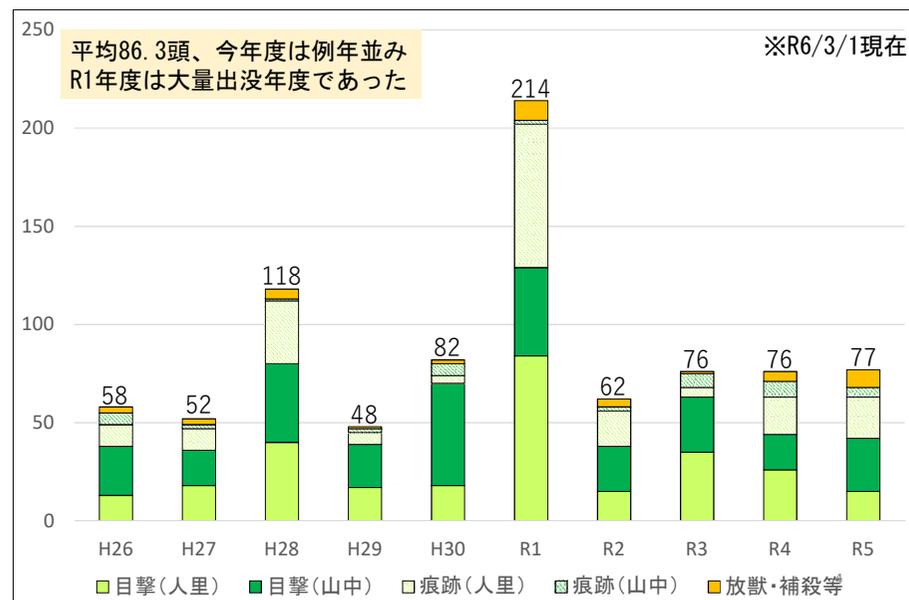
かながわ鳥獣被害対策支援センター
主任技師 成瀬 真理生

内容

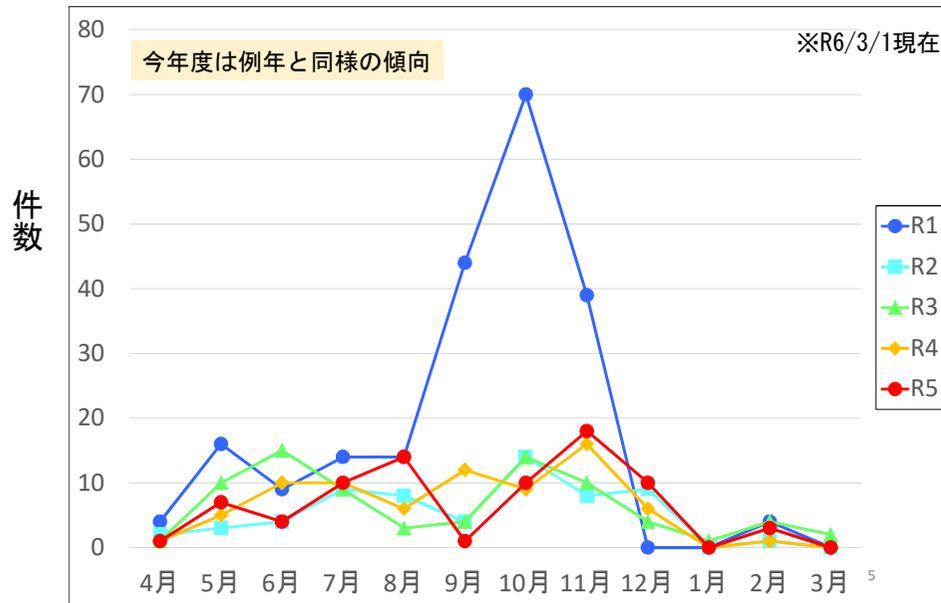
- 県内のツキノワグマ出没状況
- センサーカメラによる監視結果
- カキ園等栽培状況調査

県内のツキノワグマ出没状況

年度別クマ出没件数



月別クマ出没状況



センサーカメラによる監視結果

6

調査概要

伊勢原市子易地区は生産柿の栽培が盛んで毎年クマの目撃情報が多いことから、早期のクマ発見情報共有のためセンサーカメラを設置しクマの動向の監視を行っている。

このうち、カメラデータの回収とデータ解析を業者に委託している。

業務場所
伊勢原市子易地区

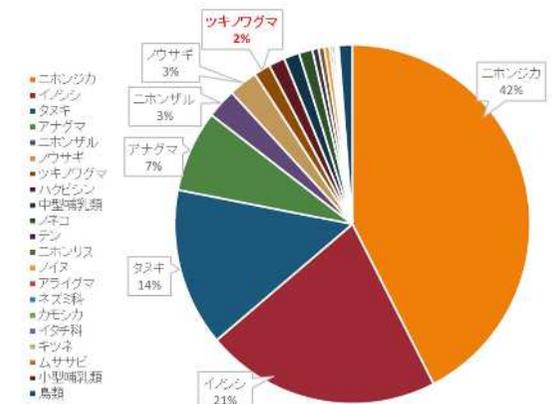
撮影期間
9月から12月まで

業務内容
カメラ設置箇所：約20ヶ所
データ回収頻度：1週間に1回

- ・カキ園、移動路を中心に設置
- ・1週間ごとに撮影状況をまとめ、湘南C、伊勢原市に情報共有

撮影結果

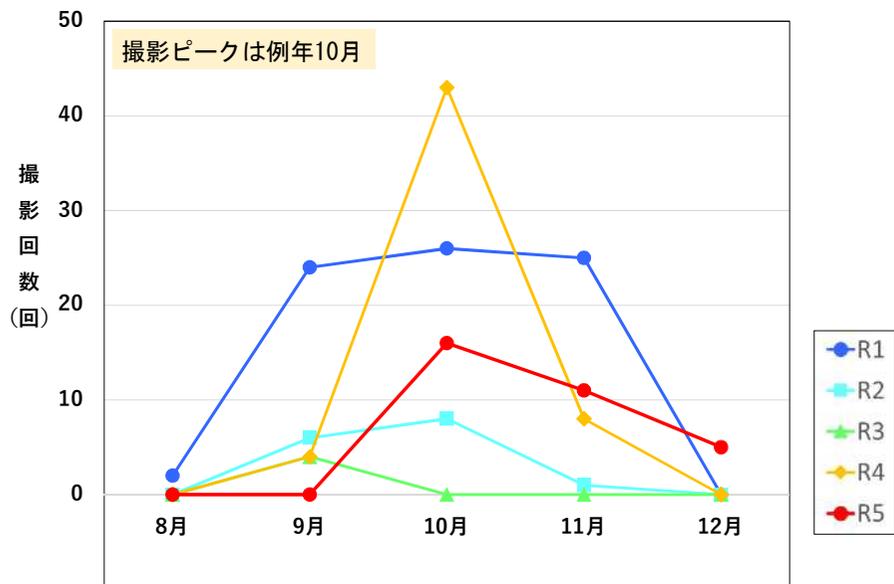
種類	撮影回数	撮影割合 (%)
ニホンジカ	900	42.45
イノシシ	453	21.37
タヌキ	302	14.25
アナグマ	156	7.36
ニホンザル	57	2.69
ノウサギ	56	2.64
ツキノワグマ	32	1.51
ハクビシン	31	1.46
中型哺乳類	30	1.42
ノネコ	26	1.23
テン	12	0.57
ニホンリス	11	0.52
ノリス	10	0.47
アライグマ	5	0.24
ネズミ科	5	0.24
カモシカ	3	0.14
イタチ科	2	0.09
キツネ	1	0.05
ムササビ	1	0.05
小型哺乳類	1	0.05
鳥類	26	1.23
合計	2,120	100.00



- ・撮影回数は全体で2,120回、ツキノワグマは32回、割合は2%
- ・ニホンジカ、イノシシが約60%を占める

8

年度別、月別の撮影回数



9

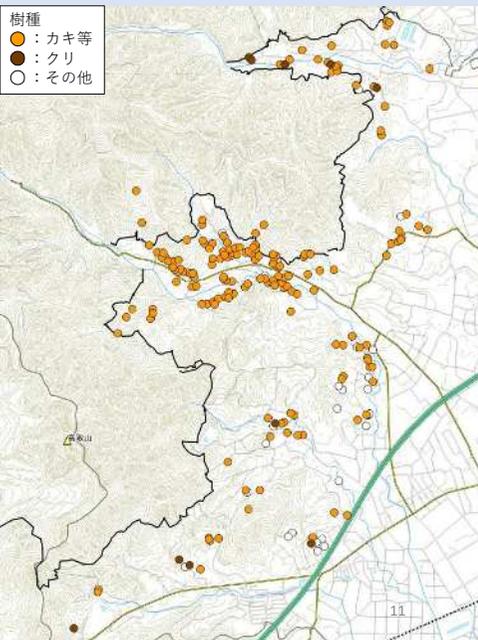
カキ園等栽培状況調査

10

調査箇所と調査項目

H26年度に行われた伊勢原市のカキ園調査の情報の更新をし、ツキノワグマ対策を進めていくことを目的として調査を行った

樹種
 ● : カキ等
 ● : クリ
 ○ : その他



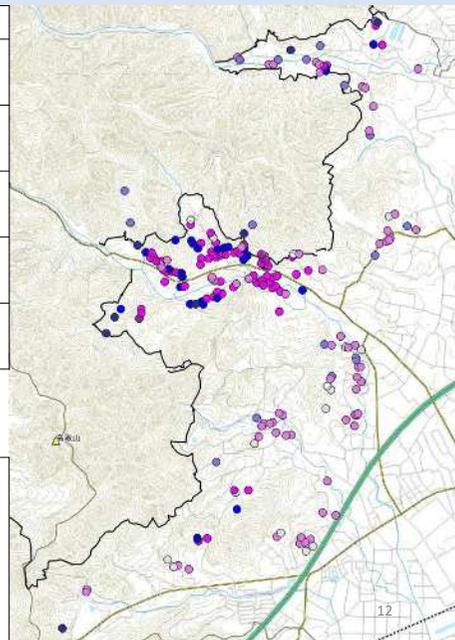
調査項目	内容
樹種	園地内の樹種を記録、樹種の変化の確認
管理状況	果樹の手入れ、園地内の下草整備など作付管理及び、放棄を記録
対策状況	クマ対策として果樹にトタン巻きなどの実施有無を記録
防護柵種類と管理状況	防護柵の種類、下草の管理、電気柵であれば十分な通電を確認
ヤブの隣接状況	園地に接するヤブの有無の記録

園地の作付け状況

		R 5			計
		作付	放棄	伐採等	
H 26	作付	65	29	6	100
	放棄	3	8	0	11
	不明	69	18	11	98
計		137	55	17	209

- ・ 現在、作付けされている園地は約65%
- ・ 放棄園は11→55に増加

状況
 ● : 作付→作付
 ● : 放棄→作付
 ● : 不明→作付
 ● : 作付→放棄
 ● : 放棄→放棄
 ● : 不明→放棄
 ○ : 作付→伐採等
 ○ : 不明→伐採等



結実状況と対策

結実状況

● : あり
○ : なし



電気柵

● : 良好
○ : 不備
○ : 柵なし



園地の環境要因

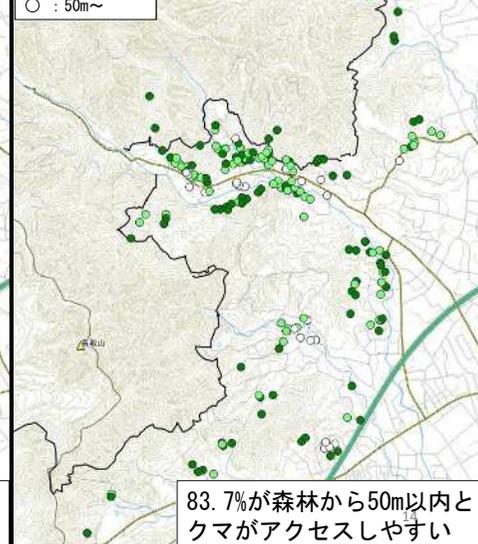
隣接やぶ

● : あり
○ : なし



森林からの距離

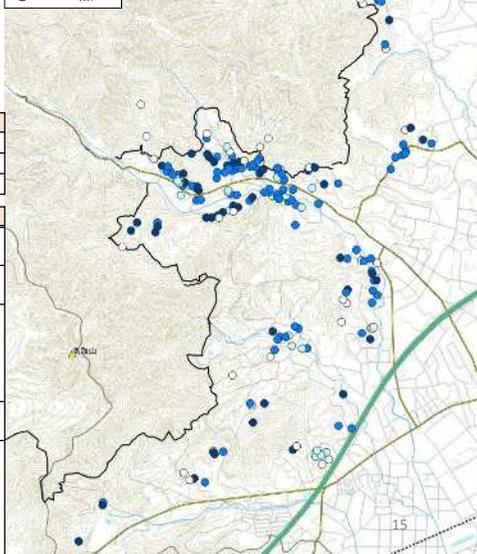
● : 林内・接林
● : 0-50m
○ : 50m~



クマ誘因性の評価

- ・ 8点以上を誘引性が高い園地とした
- ・ クマの対策に当たっての大きな要因は立地条件なので、森林からの距離に重きを置いている
- ・ 8点以上が78%と対策不十分の園地が多い

● : 10-11点
● : 8-9点
○ : 2-7点
○ : 0-1点



クマの誘引性	個数	割合
0~1点 (消失、伐採含む)	17	8.1%
2~7点	29	13.9%
8~11点	163	78.0%

評価項目	加算方法
秋にクマの餌場となるか	・ 秋に実を付ける : 1点 ・ 秋に実を付けない : 0点
園地の管理状況	・ 管理をしていない (放棄している) : 1点 ・ 管理している (営農している) : 0点
クマに有効な防護柵を設置しているか	・ 防護柵がない、電気柵以外の柵を設置 : 2点 ・ 電気柵を設置しているが管理不十分、もしくは電圧未計測 : 1点 ・ 適切に管理された電気柵を設置、稼働している : 0点
隠れ場の有無	・ 園地にヤブが隣接している : 1点 ・ 園地にヤブは隣接していない : 0点
森林からの距離	・ 森林内、もしくは森林に接している : 6点 ・ 森林から0m以上50m以下 : 5点 ・ 森林から50m以上100m以下 : 4点 ・ 森林から100m以上150m以下 : 3点 ・ 森林から150m以上200m以下 : 2点 ・ 森林から200m以上 : 1点

次年度の予定

- ・ 錯誤捕獲防止機能の有するくくり罠の試行
- ・ 捕獲個体、糞のDNA解析による執着個体の割り出し (現在進行中)
- ・ センサーカメラによる監視業務

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

3 イノシシ焼却処理試験

① 目的

県内では有害駆除等で捕獲されたイノシシ等の大型動物は主に埋設処理されている。しかし、労力不足や埋設地の確保などの課題も多く、より簡便な処理が望まれている。そこでペットの火葬業者が所有する移動火葬車を用い、イノシシ捕獲現場での焼却処理の有効性を検証する。

② 対象地域

平塚市土屋地区

③ 実施内容

ア 実施期間

令和5年12月～令和6年3月

イ 方法

・イノシシの確保

平塚市の有害駆除で捕獲されたイノシシを譲受け

・止め刺し、解体

止め刺しは猟友会、解体（火葬車の炉に入る大きさ）はかながわ鳥獣被害対策支援センター職員が担当

・焼却、残渣処理

ペット火葬業者（株動栄社：鎌倉市）が担当

④ 結果と考察

令和6年1月4日午前9時、平塚市土屋地区のくくり罠でイノシシ捕獲の一報を受け、動栄社へ連絡、午前10時、関係者が現地集合（動栄社は11時頃到着）。

猟友会会員による止め刺し（銃器使用）、計量（雄、105 kg）後に解体（四肢、頭部、胴体に分割：約2時間）、JA 湘南土沢支店の駐車場に移動し焼却（12:30頃から胴体を焼却開始し、約2時間で終了、15時頃からその他の部位を焼却し、17時頃に終了。費用（委託料）は99,000円（税込）であった。

当初、1回に焼却処理可能な量は20 kg程度と見積もられていたが、105 kgの個体が2回の焼却で処理できたので、県内で捕獲されるほぼ全て大型獣は処理可能と推測される。焼却処理中の煙や臭い、音などはほとんどなく、自動車が進入可能な場所であれば実施可能と思われる。解体作業は約5名で2時間ほど要した。30 kgを超える個体であれば解体作業は必須となるので人材の確保が課題となる。

動栄社は24時間年中無休、県内の全市町村に出張可能。費用については処理件数等によって変動するので要相談。

⑤ 今後について

止め刺しや解体等の人員確保が課題であり、今後も検討を進めていく。

令和5年度 イノシシ焼却処理の試行

かながわ鳥獣被害対策支援センター
主査 吉岡 広明

※ショッキングな画像があるため一部加工しています

1 目的

有害駆除等で捕獲される大型獣の主な処理は埋設であるが、労力面で課題がある。



より簡便な処理方法として火葬車を利用した現地での焼却処理の有効性を検証する。



2 対象地域

平塚市土屋地区

イノシシやシカによる農業被害が発生中

市がイノシシ捕獲用のくくり罠及びはこ罠を設置

罠の設置場所近くまで農道等があり、**車の進入が可能**



3 - 1 実施内容（計画）

1. イノシシの焼却作業を業務委託
令和5年12月～令和6年3月末の期間までに捕獲されたイノシシを1回（年末年始と土日祝日は除く）、焼却する
2. 平塚市がイノシシ（有害駆除で捕獲）提供
3. 支援Cがイノシシを解体・分割
4. 委託業者が焼却処理
5. 効果の検証

3 - 2 実施内容 (委託業者)

(株)動栄社

鎌倉市大町7-1644

0120-7676-51



<http://www.doueisha.com/>
創業30年、県下全域対応
年中無休24時間受付

3 - 3 実施内容

令和6年1月4日 (実施日)

午前9時：イノシシ捕獲の一報

午前10時：現地集合 (市、支援C、猟友会他)



止め刺し (猟友会)、搬出、計量、解体



動栄社到着 (11時頃)、移動 (12時頃)



焼却開始 (12時30分)、終了 (17時頃)

捕獲されたイノシシ
105kg 雄



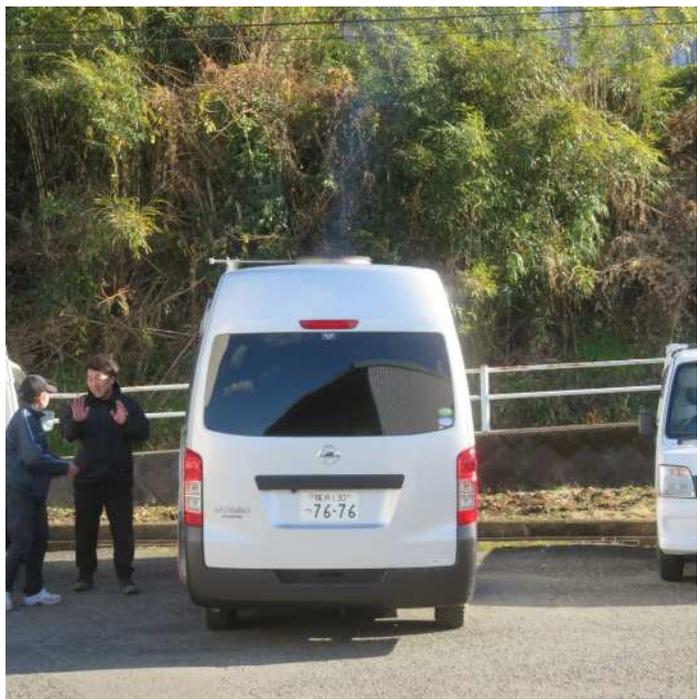
解体開始





焼却（胴体） JA湘南土沢支店





焼却（頭部・四肢）



4 結果と考察 1

- 作業時間：約 6 時間

内訳

解体・分割	2 時間
焼却（胴体）	2 時間
〃（その他）	1 時間30分
残渣処理	30分

4 結果と考察 2

経費（委託料） 99,000円（税込）

🌟 料金のご案内

大きさ別料金表

#	大きさ	料金
1	小動物 小鳥/ムスター（セキセイインコ・文鳥・小栗鼠）	¥16,500～
2	猫S・小型犬S	¥22,000
3	猫M・小型犬M	¥25,300
4	中型犬S	¥27,500
5	中型犬M	¥30,800
6	大型犬S	¥33,000
7	大型犬M	¥36,300
8	大型犬L	¥38,500
9	大型犬LL	¥41,800
10	大型犬LLL	¥44,000
11	特大型犬	¥49,500～

4 結果と考察 3

当初の懸念事項

大型個体（70kg以上）の焼却は可能？

→分割すれば可能

冬季の脂肪が多い個体も焼却可能？

→火力調整で問題なし

焼却時の煙や臭気は？

→ほぼ問題なし

5 今後の課題

・費用と作業時間については焼却依頼の件数に応じて増減する

・30kgを超える個体であれば解体、分割が必要となる→**作業者の確保**が必要となる

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

4 分布拡大地域でのクリハラリス捕獲

① 目的

被害が少なく、早期に捕獲を進めることで生息分布の拡大を防ぐことができるため、分布拡大地域等での捕獲（任意団体である「クリハラリス情報ネット」と連携して実施）や、捕獲技術等の試行・検証を行った。

② 対象地域

クリハラリス分布拡大地域である大和市の緑地5つ
（泉の森、谷戸頭緑地、上和田野鳥の森、久田緑地、下和田左馬神社）

③ 実施内容

ア 実施期間

令和4年8月～令和6年1月

イ 方法

餌付期間：箱わなにエサを設置しクリハラリスを誘引

捕獲期間：（直営）原則毎週木曜日に捕獲を実施（冬期）

（委託）月曜日にわな稼働、金曜日まで捕獲実施

殺処分：（直営）炭酸ガスによる安楽死処分

（委託）薬剤による安楽死処分

処分後：日本獣医生命科学大学に送付し研究に使用してもらった

実施場所	実施期間	実施方法	捕獲頭数
泉の森	R4.8～R4.10	直営	0
谷戸頭緑地	R4.9～R6.1	直営	46
上和田野鳥の森	R4.12～R6.1	直営	30
久田緑地	R5.11～R6.1	業者委託	22
下和田左馬神社	R5.11～R6.1	業者委託	32

④ 結果と考察

令和4年度から捕獲を実施した緑地に関しては、令和6年1月末時点で捕獲がなくなりました。生息密度が低い緑地等であれば、しっかりと餌付けをして捕獲を継続することで生息数の低減を図れたと考えられる。近隣の方にお話を伺っても、最近では声も姿も確認できなくなった、とのこと。

令和5年度に行った業者委託による捕獲は高い水準での捕獲が続いたが、まだ生息は確認されており、捕獲のペースも大きく落ちていないため捕獲の余地はある見込み。

⑤ 今後について

直営で捕獲を行ってきた緑地は、今後「市町村と一体となった取組」等を活用しながら、地域による防除やモニタリングに繋げていけるよう図る。

業者委託で捕獲を行った緑地は、国の交付金を活用して来年度も捕獲を継続する。

令和5年度

分布拡大地域での クリハラリス捕獲

かながわ鳥獣被害対策支援センター
主事 下川 彰

1 目的

クリハラリス生息分布地図(2023年1月17日現在)



1 目的

分布拡大地域では、

被害が少ないうち

早期に捕獲

生息拡大を防ぐ

捕獲技術等の試行

3 実施内容



豆知識

- ・クリハラリス・・・お腹が栗色のリス

クリハラリス

アジア全域 (中国からマレー半島にかけて)

台湾リス

(台湾固有)

1 目的

実施前の課題

- ・業者に捕獲を委託する予算が無い

⇒業者に頼らない捕獲

- ・殺処分する機材やノウハウがない

⇒クリハラリス情報ネットに協力を仰ぐ

実施前の課題

- ・集中捕獲できる人員やスケジュールに余裕がない

⇒週一回の捕獲作業、情報ネットにも協力を仰ぐ

- ・継続して捕獲をしなければならない

⇒冬の間限定で

1 目的

- ・生息数が少ない地域でも捕獲ができるのか

⇒餌付けをしっかりと

- ・緑地の所有者が分からない

⇒市に確認してもらい、捕獲実施の了承を得てもらった

2 対象地域

クリハラリス分布拡大地域である大和市の緑地



3 実施内容

実施期間

令和4年8月～令和6年1月

実施場所	実施期間	実施方法
泉の森	R4.8～R4.10	直営
谷戸頭緑地	R4.9～R6.1	直営
上和田野鳥の森	R4.12～R6.1	直営
久田緑地	R5.11～R6.1	業者委託
下和田左馬神社	R5.11～R6.1	業者委託

3 実施内容

直営による実施方法

- ①餌付期間
箱わなにエサを設置しクリハラリスを誘引
- ②捕獲期間
センサーカメラやエサの減り具合を確認し、誘引が確認されてから捕獲をスタート。原則毎週木曜日に捕獲を実施
- ③殺処分
炭酸ガスで安楽死処分
- ④処分後
日本獣医生命科学大学に送付し研究に使用

3 実施内容（直営）

①餌付期間

箱わなにエサを設置しクリハラリスを誘引
⇒どれでも誘引可能



落花生

捕獲初期はよく捕れた。しばらくすると鳥の錯誤捕獲があった。



ゆず

民家のゆずに来ていた。近くのわなに使用后捕獲できた。



栗

餌付けまで時間がかかったが錯誤捕獲はなかった。

3 実施内容（直営）

わな設置について・・・

わなの入り口にワイヤーで縦線を入れることでカラスにエサを取られることを防止できる。



3 実施内容（直営）

②捕獲期間

⇒クリハラリス情報ネットの方に協力いただき、朝方もしくは前日夜にわなを稼働してもらい、R4年度は午前・午後の2回見回りを実施。R5年度は午後のみ1回見回りで実施。

R4・・・見回り、殺処分、エサ補充

R5・・・R4+わな稼働

3 実施内容（直営）

学んだ点

- できるだけ高い場所が捕獲に適している。ただし、脚立が必要なほど高いと、見回りやわな稼働への負担が大きくなってしまう。
- 巣の近辺の木に設置すると非常によく捕れる。
- クリハラリスを目視できた場合、木と木を移動するのに使用している枝に設置すると非常によく捕れる。

3 実施内容（直営）

③殺処分

1回につき2頭まで同時に作業可能

1回6分程度



炭酸ガス



コンテナ

3 実施内容（直営）

③殺処分

- 炭酸ガス 5kg ￥33,000
⇒30匹分くらい
- 炭酸ガス調整器 ￥27,500
- ホース 10m（3mで十分） ￥2,750

3 実施内容

委託による実施方法

- ①餌付期間
箱わなにエサを設置しクリハラリスを誘引 (R5.11)
- ②捕獲期間
誘引が確認されてから捕獲をスタート。
月曜日にわなを稼働、金曜日まで捕獲実施
これを3セット行った。
- ③殺処分
薬剤で安楽死処分
- ④処分後
日本獣医生命科学大学に送付し研究に使用

3 実施内容 (委託)

- ①餌付期間
箱わなにエサを設置しクリハラリスを誘引



ごま油



落花生

3 実施内容 (委託)

②捕獲期間

月	火	水	木	金	土	日
わな稼働	捕獲				餌付け	

1セット

⋮

⋮

⋮

月	火	水	木	金	土	日
わな稼働	捕獲				餌付け	

3セット
実施

3 実施内容

- ④処分後
日本獣医生命科学大学に送付し研究に使用

- ・鎌倉市、三浦半島は小さい傾向がある
- ・大和市、横浜市の個体は大きい傾向がある
- ・どうやら高密度地域のリスと分布拡大地域のリスは遺伝子的に同一起源ではないとのこと

3 実施内容

④処分後

つまり、

- 大和市や横浜市に生息している個体は鎌倉市、三浦半島から分布を拡大してきたのではない可能性がある
- ただ、生息密度が高いためエサが足りずに小さいのか、大和市はエサの優先度が高い個体が捕獲できただけに過ぎないのかはもう少し研究が必要

4 結果

実施場所	実施期間	実施方法	捕獲頭数
泉の森	R4.8~R4.10	直営	0
谷戸頭緑地	R4.9~R6.1	直営	46
上和田野鳥の森	R4.12~R6.1	直営	30
久田緑地	R5.11~R6.1	業者委託	22
下和田左馬神社	R5.11~R6.1	業者委託	32

4 結果

泉の森 (R4.8~R4.10) 0頭

- 水車の音がクリハラリスの鳴き声に似ていたため、聞き間違えであったと判断。
- センサーカメラにもわなのエサにも来ている形跡がなかった。

4 結果

谷戸頭緑地 (R4.9~R6.1) 46頭

- 一度は捕獲が無くなった時期 (R5.3以降) があったが、今年 (R6.1) に入ってから再び捕獲されるように。
←別の緑地から侵入したのかも。
- 緑地近くの農家さんからは、「ここ最近はまったく声も聞かないし、姿も見ない」との声をいただいた。

4 結果

上和田野鳥の森 (R4.12～R6.1) 30頭

- 一度捕獲が無くなって以降 (R5.4)、捕獲終了まで捕獲は無かった。
- 巣の真下にわなを設置できた箇所は明確に多くの捕獲ができた。
- トコロジストさん (緑地ボランティア) に聞くと「ここ最近はまったく声も聞かないし、姿も見ない」との声をいただいた。

4 結果

久田緑地 (R5.11～R6.1) 22頭

- オオタカの巣があったため、警戒心が強い個体が多かった模様。
- わなへの誘引まで時間がかかった。
- まだ捕獲の余地はありそう。

4 結果

下和田左馬神社 (R5.11～R6.1) 32頭

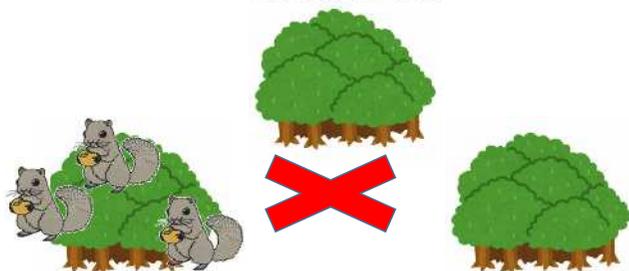
- 早いペースで捕獲が進み、捕獲3週目に捕獲数が減少した。
- 地権者の一人からは「今までよりも生息数が少なくなったように感じる」との声をいただいた。
- まだ捕獲の余地はありそう。

4 結果と考察

- 谷戸頭緑地、野鳥の森に関しては令和6年1月末時点で捕獲が無くなった。
- 生息密度が低い緑地でも、しっかりと餌付けをして捕獲を継続することで生息数の低減を図れると考えられる。
- 令和5年度に行った業者委託による捕獲は高い水準での捕獲が続いたが、まだ生息は確認されており、捕獲のペースも大きく落ちていないため捕獲の余地はある見込み。

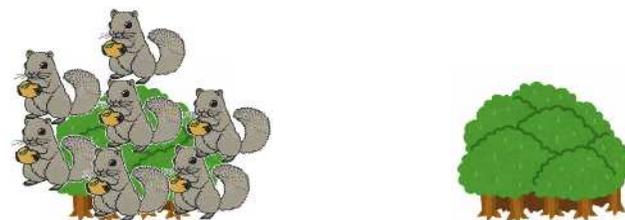
4 結果と考察

- 業者報告書によると、
「～分布拡大地域では、まずまとまった緑地での生息密度の上昇が起こることが推測される～」



4 結果と考察

- 業者報告書によると、
「～分布拡大地域では、まずまとまった緑地での生息密度の上昇が起こることが推測される～」



5 今後について

- 直営で捕獲を行ってきた緑地は、今後「市町村と一体となった取組」等を活用しながら、地域による防除やモニタリングに繋げていけるよう図る。
- 業者委託で捕獲を行った緑地は、国の交付金を活用して来年度も捕獲を継続する。

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

5 クリハラリス音声識別調査の試行業務

① 目的

従来の方法では、クリハラリスが生息している場所をピンポイントで調査しなければ発見できない、分布拡大地域では広範囲に調査しなければならない、調査による拘束時間も増えてしまう等の課題があるため、クリハラリスの生息状況調査を省力化するため、ボイスレコーダーで音声を収集しA Iによる音声解析・識別の試行をする。

② 対象地域

大和市下和田左馬神社、横浜市こども自然公園

③ 実施内容

ア 実施期間

大和市：令和5年11月～令和5年12月

横浜市：令和6年2月（業務委託）

イ 方法

クリハラリスが生息する緑地にボイスレコーダーを設置し集音。数日後にレコーダーを回収し、A I解析によりクリハラリスの音声を判別し生息を確認する。

④ 結果と考察

大和市：クリハラリスの音声は100%の精度で検出できているが、鳥の音声をリスと判定してしまうことがあり、全体では95%の正答率。

横浜市：5つの地点で集音し、全体の平均で58%の正答率。晴れの日や弱い雨の日であれば高精度で判定ができていた。しかし、雨の強い日や人通りが多い日は誤検知が多く確認された。

⑤ 今後について

大和市での集音は、鳥の音声と同時に検出されるケースが多く、クリハラリス単体の学習データが少ないことが誤検知の原因の一つであることが分かった。また、クリハラリスは連続して鳴くことが多いため、低頻度の鳴き声で誤検知している音声は検知対象外にするなど、ルールベースを導入することで対策できることが期待される。

来年度は、川や海に近いところなど環境音がある地点での調査を実施し、環境音の学習とルールベースがしっかりと機能するか検証する予定。

令和5年度

クリハラリス音声識別調査 の試行

かながわ鳥獣被害対策支援センター
主事 下川 彰

1 目的

クリハラリスの生息状況調査

- ・直接確認法
- ・痕跡法
- ・コールバック法
- ・ベイト法



痕跡法



コールバック法



ベイト法

1 目的

- ・従来の方法では、



生息場所を
ピンポイントに



分布拡大地域では
広範囲に



調査による
拘束時間も

などの課題も...

1 目的

クリハラリスの生息状況調査を省力化するため、

ボイスレコーダーで音声を収集しAIによる音声解析・識別の試行



2 対象地域

- 大和市下和田左馬神社（業者の直営）
- R5.11～R5.12

レコーダ 3 個



支援Cが持っていたクリハラリスの音声データを提供し、
実環境でのAIモデル検証を行ってもらった

2 対象地域

- 横浜市旭区こども自然公園（業者委託）
- 横浜市：R6.2～R6.3

レコーダ 2 個

レコーダ 3 個



こども自然公園

3 実施内容

調査場所にボイスレコーダーを設置



活発に活動する時間帯に集音設定



収集した音声を AI により解析



クリハラリスとその他の音声を識別



4 結果と考察

収集したデータにより音声を学習

クリハラリスリスの検出精度は95%以上で検出

出力データのイメージ（ファイル名、ラベル一覧）

```
231114_0008_3270_3280.wav risu_bird
231122_0012_3400_3410.wav bird
231122_0012_5310_5320.wav risu_bird
231122_0012_3000_3010.wav bird
231114_0008_3400_3410.wav risu_bird
231114_0008_3360_3370.wav bird
231122_0012_5500_5510.wav risu
231122_0012_3140_3150.wav bird_car
231122_0012_4270_4280.wav bird
```

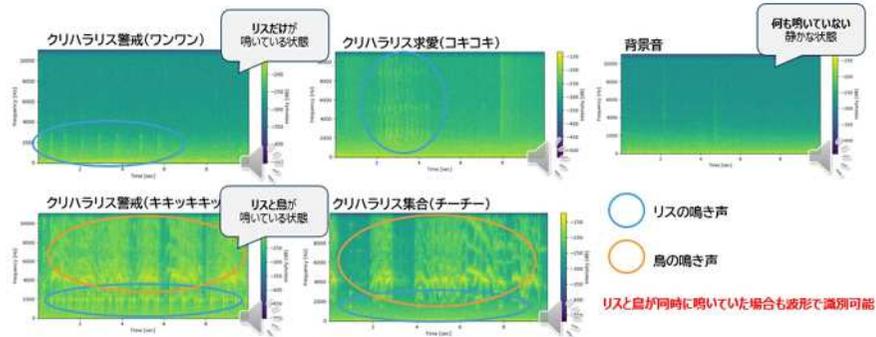
・クリハラリスの音声は
100%抽出できている
・鳥の声をリスと判定して
しまっているため95%と
なった

4 結果と考察

音声データをスペクトログラムで見る

スペクトログラム：音声波形を時間、音の高さ、音の強さで視覚的に表現したもの

(横軸：時間[s]、縦軸：音の高さ[Hz]、色：音の強さ[dB])



4 結果と考察

大和市

今回録音した環境では高精度に検出できているが、他の場所で適用した場合はやや精度が落ちる可能性がある。

横浜市

5つの地点で集音し、全体の平均で**58%**の正答率。晴れの日や弱い雨の日であれば高精度で判定ができていた。しかし、雨の強い日や人通りが多い日は誤検知が多く確認された。

4 結果と考察

- リスの音声を収集できる環境であり、リスが鳴かないと生息が確認できないというデメリットがあるが、今回調査ではセンサーカメラよりも音声による確認数のほうが圧倒的に多かった。
- カメラによる調査は、誘引エサがなくなると撮影数が急落した。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
カメラ	1	81	149	18	11
音声	249	607	727	782	254

4 結果と考察

<課題>

- 晴れの日や雨が弱い日であれば高精度にクリハリスの鳴き声を検出できていたが、雨の強い日には雨音の誤検知が目立っていた。また、人の足音や声による誤検知も確認できた。
- 誤検知している音声については、音声検知モデルの学習データに含まれていないため、学習データの中で一番似ているカテゴリに分類されてしまった。

4 結果と考察

<対策>

- クリハラリスと誤検知していた雨音や、足音、人の声など日常的な音声の再学習を行う。
- クリハラリスは連続して鳴いていることが多いため、低頻度で誤検知している音声（犬の鳴き声など）は検知対象外などのルールベースを導入することで対策可能である。
- クリハラリス単体の学習データが少ないことが誤検知の原因の一つと考えられるため、クリハラリスの学習データを追加することで誤検知を減らすことができる。

5 今後の予定

- 来年度は、川や海に近いところなど環境音がある地点での調査を実施し、環境音の学習とルールベースがしっかりと機能するか検証する予定。

I かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

6 かながわ鳥獣被害対策アドバイザーの取組

① アドバイザー制度の概要

【目的】

地域の実情に精通した者であって、対策の基本要素を習得した者が、日常的に活動する業務に付随して鳥獣被害対策についてもアドバイスを行うことにより、地域における農作物の被害防止対策を的確かつ、効果的に進める。

【対象者】

ア 鳥獣被害対策にかかる知識がない方 → 鳥獣被害対策に係る所定の研修を受講

↓

イ 鳥獣被害対策にかかる知識がある方 → アドバイザー登録

【実施内容】

ア アドバイザー研修（年6回、1年間、支援C）

「関連法規（鳥獣保護法等）」「農業被害を及ぼす野生鳥獣の生態」「集落環境調査の意義と実際（痕跡、被害の見分け方を含む）」等にかかる座学と実習

イ 登録後の活動（年に2回程度の活動報告、先進事例（技術）研修等）

② 実施の流れ（令和4年度、令和5年度）

ア アドバイザー研修

	令和4年度 17名	令和5年度（9名）
1	関連法規、野生鳥獣の生態講習	（同左）
2	集落環境調査講習（秦野市）	同左（小田原市）
3	防護柵・わな講習（平塚市）	（同左）
4	環境整備講習（大磯町）	同左（南足柄市）
5	地域ぐるみ対策事例視察（南足柄市）	（同左）
6	集落環境診断講習、修了式	（同左）

イ 登録後の研修（R5年度）

i) 講演会 令和5年9月29日（小田原市合同庁舎）

複眼的視点からの鳥獣害対策（島根県美郷町の対策）

ii) 先進事例視察 令和6年2月1日（千葉県茂原市）

捕獲個体処理問題をジビエ利用につなげる取組み、有害鳥獣駆除個体の活用事例

③ アドバイザー活動の状況（一部）

- ・電気柵や中小型動物用ワナ等資材にかかる情報提供を行った
- ・農地被害に対する対策のアドバイスを行った（防護柵、テグス等）
- ・くくりわなの講座に講師として参加
- ・チームによるシカの管理捕獲を実施
- ・防護柵管理作業（草刈等）
- ・空港等での鳥の追い払いをチームで実施
- ・市内にある捕獲檻の現地巡回検討会を実施

かながわ鳥獣被害対策 アドバイザー制度の取組

かながわ鳥獣被害対策支援センター
鳥獣被害対策専門員 矢野 陽

鳥獣被害対策アドバイザー制度概要

1. 目的

地域の鳥獣被害対策に係わる者が、地域ぐるみで行う鳥獣被害対策の基本要素を習得した上で、日常的に活動する業務に付随して、鳥獣被害対策についてもアドバイスをを行うことで、地域における農作物の被害防止対策を的確かつ効果的に進める。

2. 対象者

日常的に活動する業務等で、地域の鳥獣被害対策に係わる者。

例) 農協職員、市町村職員、猟友会会員、農業委員、自治会役員、NPO法人等

3. アドバイザーが行う助言等の内容

- (1) 地域における防除体制や防除資材等に係る助言
- (2) 地域における被害防止対策の担い手の育成に係る補助
- (3) その他鳥獣被害防止対策の推進に係る助言

4. 研修(アドバイザー育成研修)

以下の内容の座学もしくは実技とし、すべての過程を受講した者に「修了証」を発行する。

- ア. 関連法規(鳥獣保護法等)について
- イ. 農業被害を及ぼす野生鳥獣の生態について
- ウ. 集落環境調査について
- エ. 環境整備について
- オ. 防護及び捕獲について
- カ. 集落環境診断について

アドバイザー育成研修実施の流れ (R5年度)

5月	関連法規と鳥獣の生態
7月	集落環境調査、被害の見分け方
9月	防護柵及びわなの種類と特徴
10月	環境整備について
11月	地域ぐるみ対策事例視察
3月	集落環境診断、修了証授与

第1回 関連法規と鳥獣の生態

●開催地：平塚合同庁舎別館

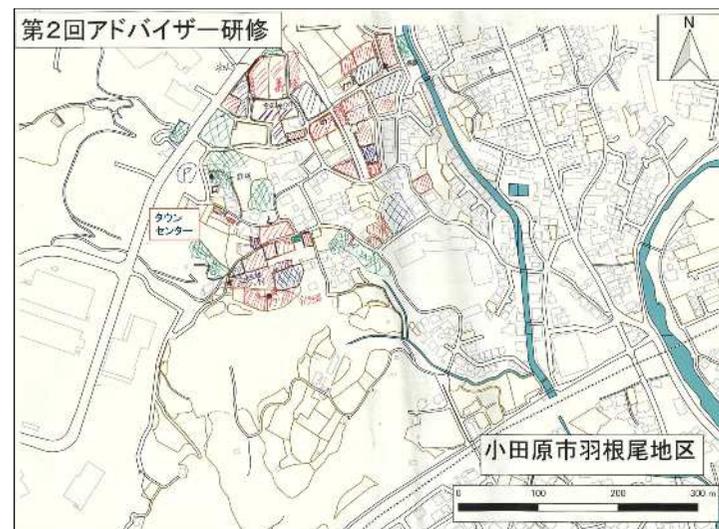


- ・鳥獣の関連法規・・・
鳥獣保護管理法
狩猟法
外来生物法等
- ・鳥獣の生態・・・
神奈川県の大形、中型、
小型の哺乳類、鳥類、

第2回 集落環境調査、痕跡の見分け方

●開催地：小田原市橘地区

集落環境調査地図



集落内を実際に調査



第3回 防護柵及びわなの種類と特徴

●開催地：平塚市土沢地区



- ・防護柵の講義
(電気柵、メッシュ柵、ネット柵等)
- ・捕獲わなの講義
(箱わな、くくりわな)

実際の資材を用いての現地実習



第4回 環境整備について

●開催地：南足柄市広町地区



足柄合同庁舎で座学(環境整備)

環境整備を実施した地区を調査



第5回 地域ぐるみ対策事例視察

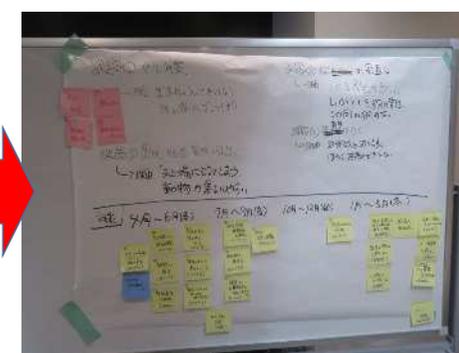
●開催地：南足柄市矢倉沢地区



地元協議会の取組、対策について、現地視察を交えながら説明。

第6回 集落環境診断演習

●開催地：JAグループ神奈川ビル



これまでのアドバイザー登録人数

- 平成30年度 登録者13名(うち休止3名)
- 令和元年度 登録者11名(うち休止2名)
- 令和2年度 登録者9名(うち休止2名)
- 令和3年度 登録者22名(うち休止1名)
- 令和4年度 登録者17名
- 令和5年度 登録者8名
- 合計 80名(うち休止8名)

アドバイザーの活動

日常業務に付随した鳥獣被害対策に関するアドバイス

例)防除資材の相談、防護柵の設置、補助金の申請、講習会の企画、捕獲指導etc



「かながわ鳥獣被害対策アドバイザー活動報告書」の提出(年2回)



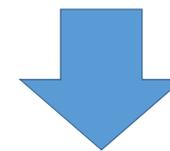
情報共有、支援Cからの助言、質問への回答etc

令和5年度のアドバイザー活動事例

- ・(横須賀市アドバイザー)カラスの被害があるトウモロコシ畑にテグス張りによる対策を提案。被害を防ぐことができた。
- ・(横浜市アドバイザー)グループ猟でシカを1頭捕獲した。
- ・(横浜市アドバイザー)トウモロコシ園で、アライグマ、ハクビシン、タヌキ用の電気柵設置を提案した。
- ・(箱根町アドバイザー)くくりわな講座の講師を担当した。

アドバイザー登録者研修について

アドバイザー登録者向けに
支援センターが主催する

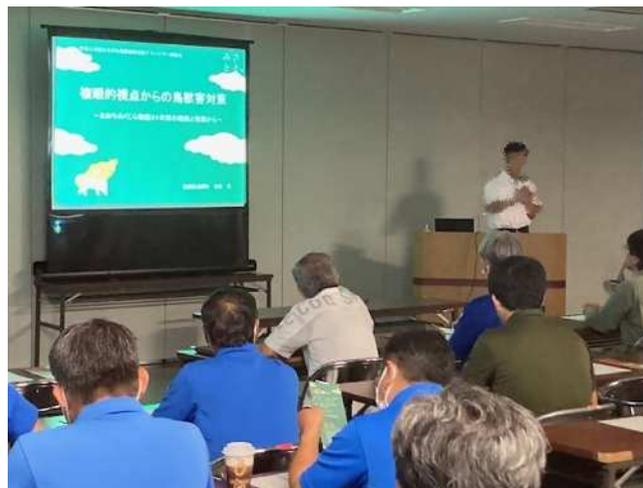


- ・鳥獣被害対策講演会
- ・先進地視察など
(年に2回程度)

令和5年度 鳥獣被害対策講演会

●開催地:小田原合同庁舎

講師:安田 亮氏(鳥根県美郷町役場)



鳥根県美郷町で
行われてきた
美郷バレー(産・
官・学・民の連携
による獣害対
策)について

令和5年度 先進地視察

●開催地:千葉県茂原市(ジビエ工房茂原)



・ALSOK(株)と連携した捕獲個体のジビエ利用への
取り組み

来年度のアドバイザー研修について

受講者推薦期日、
研修開始時期等が変わります！

・受講者の推薦期日 3月15日→4月30日まで

・研修開始時期 5月上旬→6月以降

・上記の予定に合わせ、
研修も6回→5回の開催となります。

II 市町村と一体となった取組地区

令和5年度 多様な主体による活動スタートアップ事業

新たなヤマビル対策 試行と普及



相模原市有害鳥獣対策協議会

令和5年度事業の目的

- 新たなヤマビル対策の実証試験を行う。
- 実証試験の成果を普及する【チラシ作成】。
- 地域、大学、農協、県、市が連携して取り組むことで、地域ぐるみの鳥獣被害対策の推進に資する。

事業の関係機関

【実施主体】

- 相模原市有害鳥獣対策協議会
事務局：JA神奈川つくい経済部営農経済課
相模原市緑区役所区政策課
- かながわ鳥獣被害対策支援センター

【協力機関】

- 上青根自治会
- 麻布大学 野生動物学研究室
- 女子美術大学 デザインルーム

参考にした先行研究

ヤマビル対策共同研究報告書（平成21年3月）

3. 2. 生態的な特性を活用した防除に関する調査研究
(1) 草の刈り払い等による防除に関する調査研究

効果があった草刈り方法

- ① 刈り取った草を除去した
- ② 刈り取った草を2m間隔に集積した
⇒ 草山にヤマビルが集まった
- ③ 集積した草を乾燥後に適切な処理をした

参考にした先行研究

神奈川県畜産技術センター研究報告 第3号 (2010年、平成22年)
放牧牛を利用したヤマビル被害抑制技術の検討
(3) 殺ヒル資材の散布による防除効果

人畜への影響が少ない駆除資材の試験

試験	食酢	20% 食塩水	石灰 窒素
5秒浸漬による 1時間後の死亡率	80%	67%	53%
浸漬による死亡時間(秒)	25.5	33.8	103.8

参考にした先行研究

神奈川県畜産技術センター研究報告 第3号 (2010年、平成22年)
放牧牛を利用したヤマビル被害抑制技術の検討
(3) 殺ヒル資材の散布による防除効果

食酢濃度による殺ヒル即効性

	100%	75%	50%	25%
浸漬による死亡 時間(秒)	41.1 ±19.2	52.7 ±19.2	57.4 ±20.3	93.1 ±31.4

小ビルに効果高い、8月中旬~9月下旬の散布が効果的

新たなヤマビル対策の実証試験

新たなヤマビル対策を検討

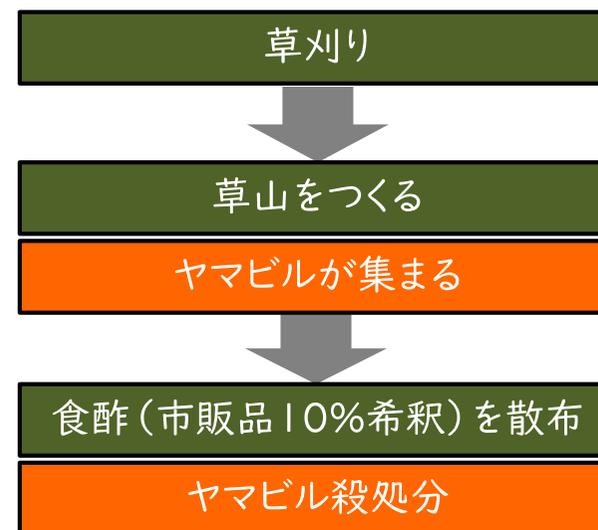
- ・ 自然環境に影響が少ない
- ・ 簡単・安価

神奈川県の先行研究

- ・ 草山にヤマビルが集まる
- ・ 食酢に殺ヒル効果がある



草山×食酢 ヤマビル対策



新たなヤマビル対策【現地実証試験】

予備試験

- 7月 ヤマビル捕獲、UVライト走行性試験
- 8月 草山づくり試験(温度確認)、ヤマビル捕獲ツルグレン装置試験、食酢試験

実証試験

- 9月21日 草刈り、草山づくり(5m間隔)
- 9月25日 食酢散布
- 9月26日 ヤマビル カウント調査【人おとり法】

予備試験 草山づくり(支援C)

- 面積当たりの草の重量の確認
- 草山を浸水させるために必要な食酢量の確認



草丈35cm, 1アール=80リットル必要

草山内部で
自然発酵が進み、
高温となった

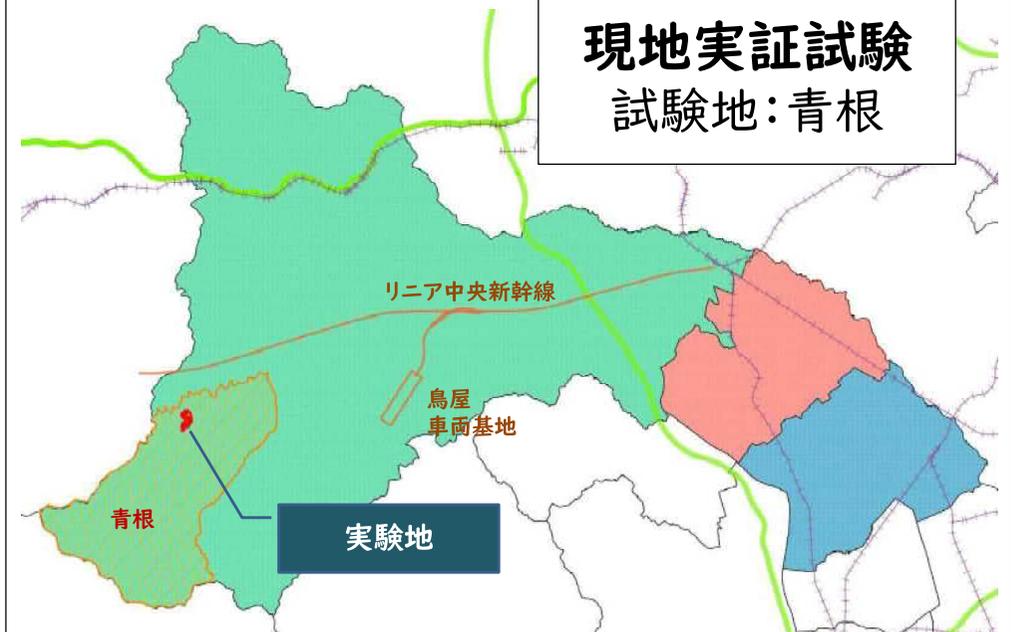
写真: かながわ鳥獣被害対策支援センター

予備試験 ヤマビルは食酢で死ぬ？



食酢50%希釈液
ヤマビル即死

現地実証試験 試験地: 青根

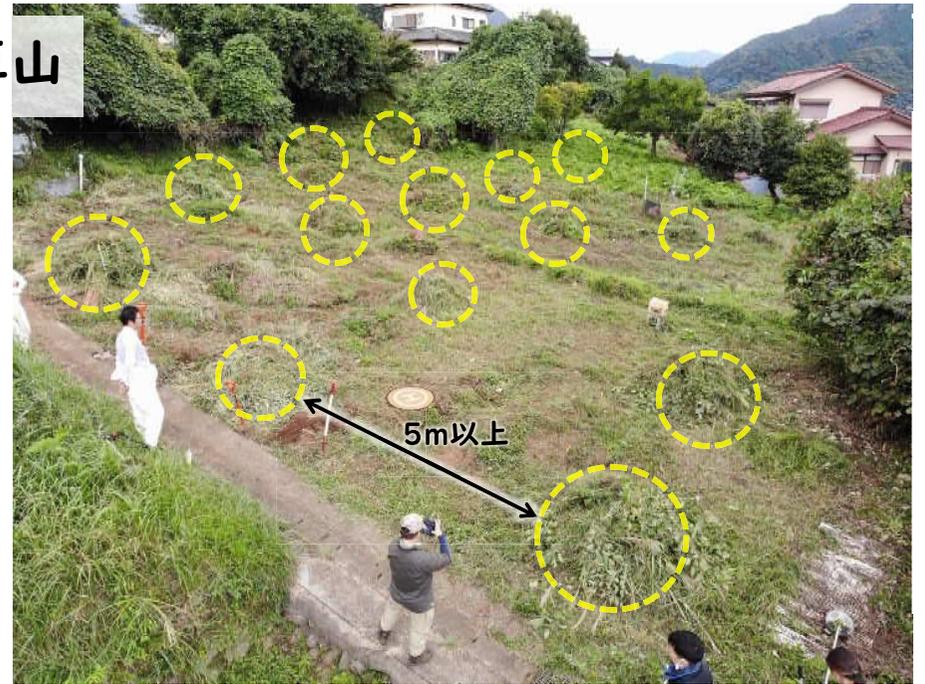




草刈り実施



草山



草刈り4日後 食酢散布



草刈り5日後 効果検証: ヤマビルカウント調査

「5分間人おとり法」



効果検証結果

5分間人おとり法

区画	ヤマビル頭数(頭/人)
①草山(食酢なし)	0.0
②草山+食酢	0.2
③草刈なし	2.3

一定の
効果あり

実証試験結果 まとめ

- 草刈り後に草山をつくることでヤマビルが減少した。
- 食酢によるヤマビルの防除効果が認められたが、数値化することはできなかった。(ツルグレン装置失敗)
- 食酢の経費は、10アール当たり3,000円となった。

新たなヤマビル対策手法の普及

女子美術大学 DESING ROOMへ
チラシのデザインを製作依頼

学生から4つのデザイン案をプレゼン
関係者らで選定→デザイン納品

市で印刷・配布



© 女子美術大学

今後の展望

- 地域住民への普及の検証(チラシ以外)
- 草山の処分方法について検討
- 気象に左右されないヤマビルカウント方法の検討
- ヤマビル対策として、シカ柵の効果検証

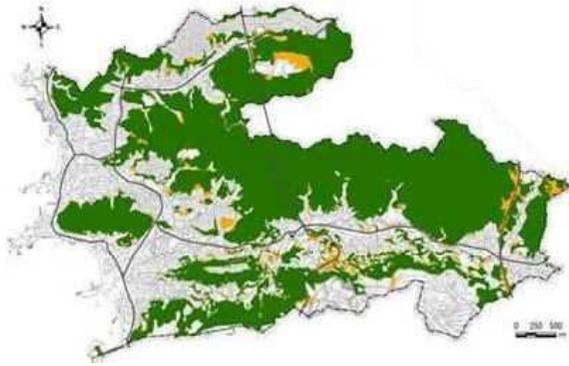


草山の処分



麻布大学と連携

Ⅱ 市町村と一体となった取組地区

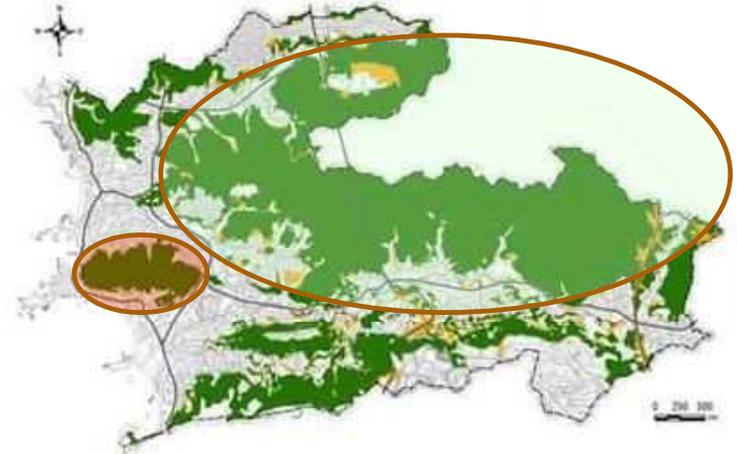


市町村と一体となった取組地区
～葉山町長柄地区～

葉山町鳥獣対策協議会

1

イノシシの生息状況



葉山町鳥獣対策協議会

2

葉山町のイノシシ対策①

生息確認

イノシシは横須賀三浦地域では生息が確認されていなかったが、平成25年に目撃されて以降、農業被害が報告されるようになった。

計画策定

平成27年に葉山町鳥獣被害防止計画を策定し、鳥獣被害対策交付金の活用を進める。

実施隊設置

平成27年度にわな猟の会を立ち上げ、平成28年度には葉山町鳥獣被害対策実施隊を組織し、町内各所にくくり罠を設置し、捕獲圧を強めるとともに、電気柵・緩衝帯の設置等の防除活動に取り組む。しかし、捕獲数を上回る速度で生息数が拡大している恐れがあることから、農業被害の拡大を防ぐことができなかった。

葉山町鳥獣対策協議会

3

葉山町のイノシシ対策②

鳥獣被害対策実施隊人数の増員

緩衝帯の設置（藪刈り）対象地区の拡大

侵入防止柵の普及促進

農業被害の軽減、捕獲数の増加

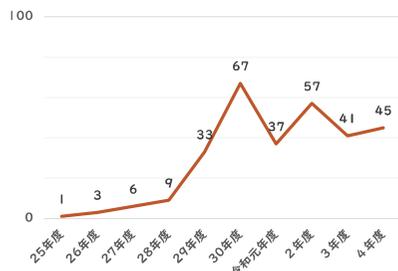
葉山町鳥獣対策協議会

4

イノシシ捕獲数の推移

(頭)				
H25	H26	H27	H28	H29
1	3	6	9	33

(頭)				
H30	R1	R2	R3	R4
67	37	57	41	45



捕獲数が生息数に追いつかず、いくら捕獲しても減らない現状が続いている。

葉山町鳥獣対策協議会

5

スタートアップ事業活用の経緯

- 侵入防止柵を農地に設置することにより、農業被害は減少したものの、侵入防止柵の設置の影響で民家に出没するようになった。
- イノシシが二子山の山中を広く行き来し、効果的に捕獲することができない。
- 捕獲だけでは防げないことから、生活圏域に侵入することを防がなければならない。
- 農林水産省の交付金は、農業被害に係るものが対象となるため、生活被害への対策に課題を抱えていた。

神奈川県、葉山町、葉山町鳥獣対策協議会、地元自治会が主体となり、スタートアップ事業を活用して侵入防止柵の設置を行うことにより、生活被害への対応のモデルとしたい。

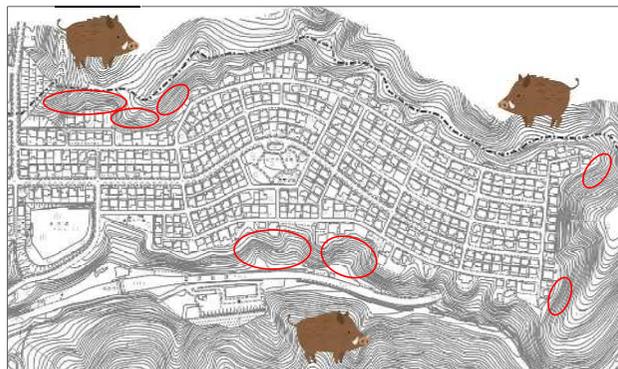
葉山町鳥獣対策協議会

6

被害状況

- ・庭が掘り起こされる
- ・庭の竹林の筍を食べられる
- ・バナナ畑のバナナを食い荒らす
- ・夜中に家の裏で鳴き声が聞こえて怖い

被害が寄せられた場所



葉山町鳥獣対策協議会

7

被害状況写真①

庭に植えられている水仙の球根が掘り起こされているが、球根は食べず、地表に放置されている。



葉山町鳥獣対策協議会

8

被害状況写真②

民家の隣の空き地が全体的に掘り起こされており、夜中には家の裏側から鳴き声が聞こえて怖い。



葉山町鳥獣対策協議会

9

侵入防止柵の設置計画

住宅地内に侵入するのを防ぐためには、全長1,330mの侵入防止柵の設置が必要となり、単年度では予算やマンパワーが不足するため、令和5年度及び令和6年度の2カ年計画とした。

令和5年度 210m
令和6年度 1,120m

令和5年度及び令和6年度の設置場所



葉山町鳥獣対策協議会

10

事前準備

日にち	内容	実施者
令和5年7月5日	現地調査	町、鳥獣被害対策実施隊
令和5年10月23日	現地調査 近隣住民説明	町、鳥獣被害対策実施隊
令和5年11月21日	現地調査	県、町、鳥獣被害対策実施隊
令和5年12月8日	設置場所マーキング作業 近隣住民説明	町、鳥獣被害対策実施隊
令和6年1月11日	設置場所マーキング最終確認 近隣住民お知らせ配布	町、鳥獣被害対策実施隊、自治会
令和6年1月12日	侵入防止柵納品	町、鳥獣被害対策実施隊、業者

葉山町鳥獣対策協議会

11

イトーピア葉山住宅地内 侵入防止柵設置作業

概要	
設置日	令和6年1月22日（月）、23日（火）
集合時間	9時
集合場所	イトーピア葉山住宅地内町有緑地 （葉山町長柄1642-437隣）
作業時間	9時～12時
設置距離	2カ所（140m及び70m） 計210m

作業工程



葉山町鳥獣対策協議会

12

人員体制

葉山町鳥獣被害対策実施隊
神奈川県
学生ボランティア
イトーピア葉山自治会
葉山町

当日作業（1日目）

- ・葉山町鳥獣被害対策実施隊 8名
- ・神奈川県 7名（学生ボランティア1名含む）
- ・葉山町 2名

当日作業（2日目）

- ・葉山町鳥獣被害対策実施隊 10名
- ・神奈川県 5名
- ・葉山町 3名

近隣住民調整及び設置後の柵の管理

- ・イトーピア葉山自治会
- ・葉山町鳥獣対策協議会

葉山町鳥獣対策協議会

13

1日目作業写真①

柵を保管していた場所から現地へ運んでいるところ



柵を設置するラインを確認しながら、柵を運び入れる人と設置する人に分かれて作業をしているところ



葉山町鳥獣対策協議会

14

1日目作業写真②

地面と柵の間に生じた隙間に柵を重ねて設置しているところ



設置後の状態



葉山町鳥獣対策協議会

15

2日目作業写真①

作業前の手順を確認しているところ



柵を設置するライン上に分散し、柵を運び入れ、両脇から設置を進めている様子



葉山町鳥獣対策協議会

16

2日目作業写真②

急斜面に沿って設置している様子



設置後の状態



葉山町鳥獣対策協議会

17

作業後の集合写真



葉山町鳥獣対策協議会

18

参考資料 《かながわ鳥獣被害対策支援センターの取組》

1 地域別、内容別の対応件数

令和6年3月31日現在

【地域別】

★合計★ 1,007

横須賀三浦	65
県央	244
湘南	301
県西	160
横浜川崎	39
その他	198

【内容別】

★合計★ 1,007

問合せ照会回答	24
現場での技術指導アドバイス	67
打合せ調整	607
会議等参加	37
講師	33
野生動物捕獲対応	53
現地調査	166
クマ調査	20

2 講師派遣一覧

33 回

期日	派遣先	主な参加者	実施した技術指導など
R5. 4. 27	かながわ農業アカデミー 鳥獣害対策講習	アカデミー生	野生動物被害の現状と対策
R5. 5. 9	秦野市 南、大根地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市 職員、JAはだの 組合員など	捕獲檻の管理指導
R5. 5. 10	秦野市 東地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市 職員、JAはだの 組合員など	捕獲檻の管理指導
R5. 5. 12	秦野市 北地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市 職員、JAはだの 組合員など	捕獲檻の管理指導
R5. 5. 15	秦野市 上地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市 職員、JAはだの 組合員など	捕獲檻の管理指導

R5. 5. 18	秦野市 西地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市 職員、J Aはだの 組合員など	捕獲檻の管理指導
R5. 6. 30	神奈川森林組合連合会「かながわ 森林塾」	かながわ森林塾受 講生	流域森林管理士コースの 「動物の生態、対策、わ な捕獲」
R5. 6. 30	J A湘南高部屋支店 高部屋地区有害鳥獣対策協議会研 修会	協議会会員	イノシシの生態と対策
R5. 8. 1	丹沢ツキノワグマ研究会 山北町サマースクール「みて・さ わって・かんじて、クマ博士にな ろう！」	小学生	クマの種類、生態、クマ 対策、糞分析体験
R5. 9. 17	NPO 法人おだわらイノシカネット 小田原くくり罠塾	塾生、会員など	イノシシの被害対策
R5. 9. 29	伊勢原市 大山地区有害鳥獣対策協議会鹿柵 管理	J A湘南組合員、 伊勢原市職員など	シカ柵の管理指導
R5. 10. 3	秦野市 大根、本町、南地区捕獲檻の現地 検討会	地域住民、J Aは だの組合員など	捕獲檻の管理指導
R5. 10. 4	秦野市 東地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、J Aは だの組合員など	捕獲檻の管理指導
R5. 10. 5	秦野市 北地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、J Aは だの組合員など	捕獲檻の管理指導
R5. 10. 6	秦野市 上地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、J Aは だの組合員など	捕獲檻の管理指導
R5. 10. 10	秦野市 西地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、J Aは だの組合員など	捕獲檻の管理指導
R5. 10. 28	松田町 まつだハンター塾・寄地区	松田町民	狩猟免許、動物の生態、 罠猟のやり方等講義
R5. 11. 3	松田町 まつだハンター塾・松田地区	松田町民	狩猟免許、動物の生態、 罠猟のやり方等講義
R5. 11. 5	NPO 法人おだわらイノシカネット 小田原くくり罠塾	塾生、会員など	集落環境調査手法
R5. 11. 9	J A西湘 鳥獣被害対策講習会	J A西湘組合員	野生鳥獣の生態と効果的 な捕獲方法
R5. 12. 1	東京環境工科専門学校 横須賀三浦地域の二子山山系で実 習	東京環境工科専門 学校生、教員	イノシシの痕跡調査、ク リハラリスの痕跡調査・ コールバック調査、地図 読み等
R5. 12. 8	東京環境工科専門学校 横須賀三浦地域の二子山山系で実 習	東京環境工科専門 学校生、教員	イノシシの痕跡調査、ク リハラリスの痕跡調査・ コールバック調査、地図 読み等
R5. 12. 18	東京環境工科専門学校 キャリア演習	専門学校生	支援センターの活動内容

R5. 12. 19	J Aはだの 捕獲檻現地巡回検討会結果報告会	地域住民、J Aはだの職員など	捕獲檻現地巡回検討会まとめと提案
R6. 1. 12	J Aはだの 動物駆除用煙火取り扱い講習会(菘毛地区)	講習会受講者	煙火を用いた追い払い、シカ・イノシシ・クマの生態
R6. 1. 15	東京環境工科専門学校 野生動物保護管理事業演習	専門学校生	野生鳥獣の保護・管理制度に関する活動
R6. 1. 19	J Aはだの 動物駆除用煙火取り扱い講習会(菖蒲地区)	講習会受講者	煙火を用いた追い払い、シカ・イノシシ・クマの生態
R6. 1. 29	里山再生の会あわいのもり 初心者向け鳥獣対策勉強会	会員など	鳥獣被害の現状、野生鳥獣の生態、被害対策
R6. 2. 11	伊勢原市新田生産森林組合 鳥獣被害等研修会	組合員	鳥獣被害等の現状や対策
R6. 2. 13	農業技術センター 農業基礎セミナー	受講者	鳥獣害対策
R6. 2. 20	J Aはだの くくり罠取扱い研修会	講習会受講者	捕獲手順について等
R6. 2. 28	東京神奈川森林管理署 有害鳥獣捕獲(わな)研修	管理署職員	捕獲技術
R6. 3. 13	J Aはだの 有害鳥獣捕獲講習会	J Aはだの組合員	捕獲対象動物の生態、猟具の取り扱い、作業における危険性

3 委託業務一覧

1. クリハラリス捕獲業務委託
2. 令和5年度ニホンザル生息状況調査委託業務
3. 令和5年度イノシシ捕獲業務委託
4. 新機材によるイノシシ捕獲の現地実証業務委託
5. 令和5年度野生動物を対象とした自動撮影カメラのデータ回収及び解析業務委託(葉山)
6. 市街地及び隣接した農林業地域におけるツキノワグマの出没状況調査に係る業務委託
7. 令和5年度自動給餌機による捕獲おりの省力的管理の試行業務委託
8. 令和5年度ツキノワグマDNA分析による個体識別業務委託
9. 令和5年度ツキノワグマの行動把握を目的とした自動撮影カメラのデータ回収及び解析業務委託
10. イノシシ焼却処理業務委託
11. クリハラリス音声識別調査の試行業務委託
12. 令和5年度自動撮影カメラを用いたイノシシ生息状況調査業務委託
13. 令和5年度鐘ヶ嶽群ニホンザルGPS首輪装着業務委託